



滋賀退職者連合 会長
(UAゼンセン友の会)
増田 勝治さん

表章された方の紹介<エイジレス・ライフ実践事例>

「エイジレス・ライフ実践事例・社会参加活動事例」事業とは

高齢社会での生き方の例として、エイジレス・ライフを楽しんでいる個人や社会参加活動を積極的に行っているグループを紹介し、高齢期を迎えたりこれから迎えようとする世代の生活の参考にさせていただくことを目的として内閣府が1995年9月からスタートさせたものです。

退職者連合は、内閣府の事業目的に賛同し、2019年度において地域で活動する退職者連合の会員・団体を推薦したところ、1個人が表章されましたので、その活動をご紹介します。

五・七・五・七・七の言葉の美しさに魅了され…

かるたを始めたのは1975年です。息子（長男）と共に公民館活動「大津あきのた会」に入会したのをきっかけに、本格的に競技百人一首を始めました。

もともと学生時代から古典・文学に興味を持ち、現在でも、社会科資料集などが私の愛読書です。近年、「声に出してみたい日本語」（著者：齊藤孝）で暗誦・朗

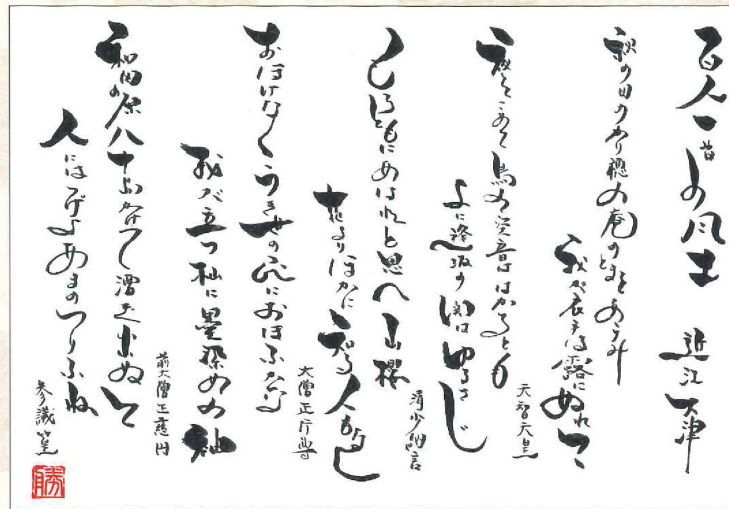
誦文化の楽しみを説かれています。与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」の一文、「ああ、おとうよ、君を泣く、君死にたまふことなかれ」や福沢諭吉「学問のすすめ」の一文、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」といったリズムカルな文章に魅了されました。百人一首をきっかけに、五・七・五・七・七のリズムにのめり込んだのです。

「一日三首覚え、一ヶ月で百首」を目標に、土曜日は午後5時から9時まで猛練習。日曜日は競技百人一首の大会参加という日々が何年も続きました。

会社生活は入社以来、研究開発に従事し、炭素繊維や矯正レンズなどの開発を担当しました。残業・休日出勤などが当たり前のモータリ社員でした。1986年には、東レ労働組合滋賀支部の専従役員に就任し、川端達夫代議士の誕生にも

携わるなど忙しい毎日を送っておりました。

一方で、競技百人一首の活動も継続しました。1993年に「大津あきのた会」会長に就任するとともに「滋賀県かるた協会」会長になりました。退職後は、2006年に「日本高等学校かるた連盟」会長に就任し、滋賀県のみならず、全国かるたマンを育てる活動に全力投球してまいりました。



かるたの聖地「近江神宮」…、「ちはやふる」で一大ブームに

競技かるたがまだまだマイナーな競技であった1979年に滋賀県で高校総体が開催され、当時、会長をされていた私の師である中西秀三先生の発案で「かるた甲子園」を企画。運営費集めに苦労しましたが、必死で企業からの協賛金を募り、全国から8校の参加を得て開催にこぎつけました。

これをきっかけに競技かるたは年々隆盛を極め、2016年の大会では56校、個人戦で史上最高の1,532名が参加するまでの大会になりました。高校の大

会だけではなく名人戦などが行われる近江神宮は、「かるたの聖地」と呼ばれるようになりました。

そして、高校かるたマンの青春物語を描いた漫画「ちはやふる」（作：末次由紀）にて近江神宮・勸学館が実にリアルに描かれ、2016年に滋賀県大津市での撮影を中心に映画化されました。滋賀県や大津市の各種イベントや京阪電車のラッピング電車など一大ブームとなり、競技かるたは一段と盛んになる様相を呈しています。

競技百人一首のさらなる躍進を目指す

競技かるたを始めて40年…。始めた当時はこんなにブームが起こるとは想像できませんでした。指導者に恵まれ、良き応援者を得て活動させていただけたおかげです。

なによりも底辺の拡大を目標において、活動を進めてきた「大津あきのた会」も、10名足らずの会員が今や300名程にまで増えました。これは私にとって

何よりも喜ばしいことです。

今後は、名人・クイーンを当会から輩出すること、高校選手権大会で滋賀県の高校を優勝させること、高松宮記念杯で優勝させること、これらの大きな目標を掲げ選手の育成と大会の運営に全力で努力をしていきたいと思っています。

難波律に咲くやこの花冬龍り
今を春迎と咲くや木の花

佐々木信綱撰定

私と競技かるた 増田 勝治

(滋賀退職者連合)

- 一、 競技かるたとの出会い
全人格の開花・生き甲斐研修・公民館活動
暗誦文化・朗誦文化 五・七・五・七・七の旋律
- 二、 百人一首と競技かるた
藤原定家 小倉山狂歌集 飛鳥 天智天皇・鎌倉頼徳院
金色夜叉 お座敷かるた 黒岩浪香 競技かるたルール制定
- 三、 近江神宮と競技かるた
御祭神 天智天皇 百人一首第一番
名人・クイーン戦・高校選手権・大学選手権・小中学生大会
“ちはやふる”の舞台―高校選手権大会―高校生の慣れ
- 四、 現在の活動
(一社) 全日本かるた協会 理事
全日本高等学校かるた連盟会長
競技かるた発展各種大会の運営 道としての礼節
- 五、 これからの活動
知能スポーツ・国際化・バリアフリー化